

エスペラント電子辞書の歩み

青山 徹

一般に電子辞書という時は携帯用の電子機器端末（シャープとかカシオなど）と電子辞書用テキスト（元になる辞書ファイル）を指しているようです。電子辞書プログラムという、辞書テキストをコンピューターとかの端末様式に適合させるソフトも必要です。

また、コンピューターやスマホ・タブレットで使う時にはオンラインで使える辞書とダウンロードしてオフラインで使える辞書があります。

95年に小野隆夫さんと広高正昭さんが PIV (Plena Ilustrita Vortaro) の単語 15 000 語を日本語に訳すという計画をたて、17 人の協力者でスタートしました。これが 96 年に完成し、公開されました。ネット通信を通じて行われたので、1 年で完成しました (Windows 3.1 の時代です)。これがいわゆる電単 (電子版エスペラント日本語単語集) です。これはワープロソフトの検索でも使えましたが、山野敏夫さんが作った「電単用辞書ツール」を使うと便利でした。これはコンピューターにインストールして使うエスペラント用の辞書として普及した最初のものだと思います。

2000年には広高さんが **Evawin** というコンピューターで使える辞書プログラムを発表しています。これをインストールして辞書ファイルを入れ、タスクバーに置いておくと、コンピューターでエスペラント文を読みながら、単語を調べられます。これは今でも使えるもので、非常に重宝します。辞書ファイルはどれでもこの辞書形式にすれば複数インストールできます。



2003年にはモバイル端末として NTT ドコモより “シグマリオン 3” が発売されており、福田俊弘さんが『実用エスペラント小辞典』の辞書データを変換して使う方法をホームページで紹介しています。



2005年にはソニーからユーザー辞書が使える電子辞書というのが発売されました。広高さんの作った辞書ファイルや上記の電単の辞書ファイルを山野さんがこのソニーの辞書に合う辞書形式にしてホームページに公開しました。これ

により、エスペラント界には爆発的に「エスペラントが使える電子辞書」として流行し、外国人が羨ましがっていました。

本を読んだりするとき非常に便利で、このためエスペラントの本が売れるようになったと言われています。また、大会などに持って行く人もいました。しかし、その後ソニーは電子辞書から撤退したため、新しくソニー製品を買うことは出来なくなりました。

2008年にはセイコーインスツル（SII）より、やはりユーザー辞書が使える電子辞書が発売されました。山野さんが広高辞書（後述）などをこの様式にしたものをホームページ上で発表し、エスペランティストはこれをダウンロードしてこの電子辞書にインストールして使いました。しかし、SIIも2015年に電子辞書業界から撤退しました。

現在、電子辞書端末がエスペラント界で見られるのはこのソニーとセイコーのもので、その後はネットオークションでこの2社の製品を落札して、使う人もいます。

2008年より広高さんは辞書ファイル作成し、発表しています。当時は39,000語でしたが、後に新しい単語を次々追加し、2017年には44,000語になりました（いわゆる広高辞書）。この頃以降に出来た辞書プログラムはほとんどこの広高辞書を使っています。

コンピューターのオンラインで使える辞書としてはGlosbeなどがあります。また、JEIのホームページにはネット用のエスペラント日本語辞典が載っています。コンピューターでこのページを開きながら、ネット書籍を読んだり、紙の本を読むことが出来ます。ほかにGoogle翻訳を利用するという手もありますが、辞書としては今一步です。

その後、電子辞書端末は入手しにくくなりましたが、一方ネット界にはスマホやタブレットがデスクトップやノートのコンピューターを凌駕するようになりました。

そのため、特に若い人はこのスマホなどで使えるエスペラント辞書を探すようになりました。オンラインで使えるものとしては、上記のGlosbeやJEIのネット辞書などがありますが、オンラインで使うと、通信料がかさむので、オフラインで使えるものを探していました。2018年4月にオフラインでも使える「エスペラント辞書」がApp Store、playストアにアップロードされました。AndroidでもiPadでも使えます。各ダウンロードサイトからインストールしてください。「エスペラント辞書」で検索、表紙にeoとあるアイコンです（左のアイコン）。エス日、日エスとも可。カタカナで読み方が書いてあるので、エスペラント単語の表示が小さいのが難です。

その後「オアーズ+実用エスペラント小辞典」というのも出来ました。これは表示も大きく、見やすいです（右のアイコン）。



電子辞書は単語集に近く、本来の学習には良く無いという意見もありますが、本を読んだり、ネットでエスペラント書籍を読むには便利だし、エスペラントに慣れるには良いと思いますので、今後とも普及していくのではないのでしょうか。下の写真の左が「オアーズ辞書」で右が先発の「エスペラント辞書」です。

